

平成28年1月度定例自然観察会報告書

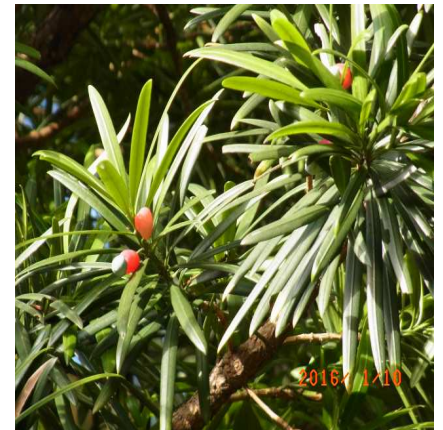
六甲山自然案内人の会

実施日：平成28年1月10日（日）
天候：晴
担当班：6班
テーマ：旧摩耶道（もとまやみち）に分け入る
見所：`旧摩耶道`はかつては天上寺への参道のひとつ。
今やほとんど歩く人のない忘れかけられた摩耶古道。
そんな古道に分け入ってみましょう。
下山道の`青谷道`は今も多くのハイカーで賑わういわば表参道。
今回はふたつの参道を歩き比べます。

参加人員：ビジター43名、会員40名、合計83名
コース：新神戸駅～雷声寺～旧摩耶道～青谷道～市バス停「青谷」

配布資料：ルートマップ 植生一覧表

タイム： 9：30 開会挨拶
9：40 出発
10：00 徳光院
10：35 雷声寺
10：45 旧摩耶道登山口
12：10～12：40 東山分岐にて昼食
13：30 行者茶屋跡
15：00 妙高院 解散



イヌマキ

【観察記録】

新神戸～徳光院

夏の終り、法師蟬の声が空に響き渡っていたこのあたりにも、木枯しが葉を散らし吹きだまりを作っている。そんな冬芽の季節に総勢83名、樹木の観察会を楽しんだ。徳光院朱楼門のあたり、常緑の葉からのぞくイヌマキの赤い実が私達を和ませてくれた。緑色の部分は毒成分を含み食べられない。鳥などがこの花床をたべるとき種散布が行われるとの説明。それにしても、美味しそうな実である。一粒口に含んでみたいがここは鳥達に譲って先に進む。

川崎財閥の川崎正蔵が私財を投じて建立した徳光院に到着。よく手入れされた境内には室町時代の多宝塔や山門、鐘楼など。明治の頃から移築や修復を重ね現在の姿に調えられた経緯等詳しい説明があった。

五大友厚、広岡浅子らの名前が登場してくる話に皆さん聞き入っていた。しばし、

境内を散策。

クスノキ エノキ アラカシ イヌビワ スギ ネザサ ムクノキ ビワ他

雷声寺～旧摩耶道

すっかり葉を落したこの季節ならではの樹木の観察では、立ち止まったおりに足元の落葉や種子、実にも注目。触ってみる、比べてみるなど観察のポイントを教わる。樹皮にも多種多様な特徴があり、何故こんな状態になるのか理由を調べてみたい気がする。見分けながら名前を覚える。

ネジキ アベマキ イヌシデ エノキ ムクノキ ヤマザクラ アオキ他

行者堂茶屋跡

日あたりの良いこの場所に、扇型に枝を広げサヤを揺らしているのはネムノキ。

「ここにいます」と香を放つ黄一色のソシンロウバイ。茶屋跡を見守っているかのようなカンツバキ。石垣にロゼットで冬越しする野草たちの必死な姿に愛おしさを感じる。ヤマネコノメソウとネコノメソウの違いやツル植物のツルの絡み方の違いなどの説明。「時計台のクサギ」「バルタン星人はクロモジ」そして「燈明のマルバアオダモ」とおもしろい解説に皆さんうなづく。雑草のひとつで片づけてしまいそうな植物も名前をひとつ一つ教えてもらいながら青谷道を下る。

オニタビラコ ムラサキニガナ セイヨウタンポポ ナガバタチツボスミレ

シマカンギク ミツバベンケイソウ アキノタムラソウ スズシロソウ他

青谷道～妙高院

12月頃川沿いに気の早い梅が一・二輪花をつけていたのが今日はもう満開だ。花の少ないこの時期に白梅は我が世の春とばかり一人謳歌していた。公園ではホトケノザが控えめに花色をのぞかせていた。

新神戸から妙高院まで約5時間20分の行程を歩き終え、無事に到着、解散となりました。おつかれ様でした。

6班 古賀直子



触ってみたくになります
カゴノキ



コウヤボウキ



ソシンロウバイ



ウメ



満開の白梅